

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立佐原小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	福島市立佐原小学校 全校児童28名 1年生3名 2年生5名 3年生8名 4年生2名 5年生4名 6年生6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (佐原っ子フェスティバル) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (ジャパンウォークイン福島) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けてその意義や価値などへの理解・関心を高め、福島での競技開催に一番近い小学生として、地域全体のオリンピック・パラリンピックに向けて機運醸成を図る。 ○ 多様な文化を受け入れ、人々が互いに人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する「共生社会」についての理解を深めるとともにその実現を目指そうとする心情を育む。
5 取組内容	(1) ジャパンウォークイン福島 ・ 2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げ、オリンピック・パラリンピアンと一緒に歩いたり、障がい者スポーツを楽しんだりすることで障がいのある方やない方も、誰もが分け隔てなくともに暮らす共生社会についての理解を深める場となった。   (2) 道で咲かせよう東北の花プロジェクト定植イベント ・ 2020年オリンピックの野球・ソフトボール会場となる「福島あづま球場」へのアクセス道路の一部に東京都民と福島県民で育てた花を定植し、彩ることによりオリンピックへの「応援」「感謝」「おもてなし」の心情を世界に伝えるとともに

に子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの夢を醸成することができた。



(3) オリンピック・パラリンピックの学習を通して共生社会を考える。(5・6年)

- ・ 総合的な学習を中心に共生社会について調べ学習を行い、理解を深めるとともに調べたことをまとめ伝えることができた。

(4) オリンピック・パラリンピックの文化について調べよう。(3・4年)

- ・ 総合的な学習を中心にオリンピック、パラリンピックの文化を調べることを通して、日本や外国の文化への興味や関心を高め、調べ学習を行った。

(5) 佐原っ子フェスティバル(3・4年)

- ・ 学習発表会で2020年に福島市のあづま球場で野球とソフトボールのオリンピックが開かれることを保護者や地域の方へ呼びかけ、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めた。



(6) パラリンピック種目ゴールボール体験

- ・ ゴールボール日本代表の川嶋悠太氏をお招きし、直接ふれあうことで、ゴールボール種目への理解や関心を高め、スポーツの楽しさや奥深さを体験するとともに障がい者スポーツへの理解を深め共生社会について考えることができた。

(講師アシックスジャパン株式会社東京本社 川嶋悠太 様)



6 主な成果

○ ジャパンウォークイン福島に参加することで、オリンピック・パラリンピックをより身近なものに感じ、オリンピックへの関心がさらに高まった。

○ ゴールボール日本代表の川嶋悠太氏と直接ふれあうことで、ゴールボール種目への理解や関心を高め、スポーツの楽しさや奥深さを体験するとともに障がい者スポーツへの理解を深め共生社会について考えることができた。また、実際に競技を行うことで、パラリンピックへの関心を高め、障がいをもっている方への理解がより深まった。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3・4年生はオリンピック・パラリンピックが開催される福島あづま球場に隣接する小学校に在籍していることに誇りをもち、「佐原っ子フェスティバル」の発表を通して、地域や保護者の方へ参加の呼びかけを行うことができた。 ○ オリンピック・パラリンピックの学習を通して、外国の方や障がい者への見方が変わり、共生社会を作り上げていくことがこれからの世の中にとって、とても大切なことに気づき、スポーツが大きな役割を担っていることに改めて気付くことができた。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3～6年生の総合的な学習の時間での学習と関連させながらオリンピック・パラリンピック教育を推進することができた。 ○ オリンピック・パラリンピック競技の開催地に最も近い小学生であることを子どもたちに動機付けにさせながら事業を展開することができた。 ○ 様々なイベント等への参加、パラリンピアンを講師として招くことによりオリンピック・パラリンピックがより身近なものに感じるよう工夫してきた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業を進めていく上で、予算の関係上1学期(4月から6月)に実施するのが困難な状況なので、主に7月以降の活動として計画、実行していく必要がある。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度もオリンピック・パラリンピック教育の時間を総合的な学習の時間に位置づけ、本事業を継続して実施する予定である。来年度は、いよいよオリンピック開催の年なので、本校は、「福島あづま球場」に最も近い小学校として、オリンピック・パラリンピック教育を通じて地域とともにオリンピック・パラリンピックを精一杯、盛り上げていきたい。